2019(令和元)年度
甲南女子大学
教職課程年報

甲南女子大学　教職支援課

目　次

１．2019(令和元)年度動向

(1) 本学教職課程・保育士課程 3

(2) 教職課程履修者数 4

(3) 介護等体験者数 4

(4) 教育・養護実習生数 5

(5) 保育実習生数 6

(6) 教員免許状取得者数（一括申請） 7

(7) 学校教員および保育士就職状況 8

２．学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座の実施について 9

(2) 教員採用試験・公立幼保採用試験対策講座の実施について 10

３．教員免許状更新講習の実施について 11

４．各種体験記

実習体験記

✧ 教育実習の感想・反省　総合子ども学科　秋山　のぞみ 12

✧ 教育実習の感想・反省　総合子ども学科　辻　友梨奈 14

✧ 教育実習の感想・反省　総合子ども学科　山﨑　かりん 16

✧ 目指す養護教諭像と学校で求められる力について
看護学科　青野　咲良 18

✧ 目指す養護教諭像と学校で求められる力について
看護学科　岩淵　麗 20

✧ 目指す養護教諭像と学校で求められる力について
看護学科　幸林　ひかり 22

✧ 養護実習を終えて　看護学科　岩淵　麗 24

✧ 養護実習を振り返って　看護学科　幸林　ひかり 26

介護等体験記

✧ 社会福祉施設における介護等体験の感想とまとめ

英語文化学科　山脇　海梨 28

✧ 特別支援学校における介護等体験の感想とまとめ

総合子ども学科　藤井　有梨沙 29

教員を目指すまでの道のり

✧ 合格体験記　英語文化学科　宮永　青空 31

✧ やってみよう精神　総合子ども学科　舩越　由佳 33

✧ 私の合格体験記　総合子ども学科　松本　佳奈 34

✧ 合格体験記　総合子ども学科　長友　紫穂 36

✧ 教員採用試験合格体験記　総合子ども学科　本田　やす子..... 37

教員を目指す後輩へのメッセージ・アドバイス

✧ 合格体験記　総合子ども学科　藤田　明香里..... 39

✧ 教員を目指す皆様へのメッセージ　総合子ども学科　橋口　えりか..... 41

５．教職支援課の概要

✧ 教職支援課の体制について 42

✧ 教職支援課の利用について 42

✧ 主な学生支援スケジュール 43

６．教員の養成の状況についての情報

✧ 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること 44

✧ 2019(令和元)年度　教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること 47

✧ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること 48

✧ 2019(令和元)年度　教職課程・保育士課程のイベント参加状況 49

1．2019（令和1）年度動向

(1) 本学教育課程・保育士課程

本学教職課程・保育士養成課程において、2019年度以前入学生が取得可能な教員免許状・資格は、以下の通り。

＜学部＞

学部・研究科	学科・専攻	取得可能な免許状・資格
文　学　部	日本語日本文化学科	中学校教諭一種(国語)
		高等学校教諭一種(国語)
	英語文化学科	中学校教諭一種(英語)
		高等学校教諭一種(英語)
	多文化コミュニケーション学科	中学校教諭一種(英語)(※2)
		高等学校教諭一種(英語)(※2)
人間科学部	心理学科	中学校教諭一種(社会)(※2)
		高等学校教諭一種(公民)(※2)
	総合子ども学科	幼稚園教諭一種
		小学校教諭一種
		保育士
	文化社会学科	中学校教諭一種(社会)(※2)
		高等学校教諭一種(公民)(※2)
	生活環境学科	中学校教諭一種(社会)(※2)
		高等学校教諭一種(公民)(※2)
看護リハビリテーション学部	看護学科	養護教諭一種
医療栄養学部(※1)	医療栄養学科	栄養教諭一種

※1 2018年度に学部学科を開設。

※2 2019年度生から廃止。

＜大学院＞

研究科	専攻・コース		取得可能な免許状
人文科学総合研究科	言語・文学専攻	日本語日本文学コース	中学校教諭専修(国語)
			高等学校教諭専修(国語)
		英語英米文学コース	中学校教諭専修(英語)
			高等学校教諭専修(英語)
	心理・教育学専攻	心理学総合コース	高等学校教諭専修(公民)※
		臨床心理学コース	高等学校教諭専修(公民)※
		人間教育学コース	幼稚園教諭専修
			小学校教諭専修
	社会・文化環境学専攻		中学校教諭専修(社会)※
			高等学校教諭専修(公民)※

※ 2019年度生より廃止

(2) 教職課程履修者数

各学部学科の１年次に『教職論』を履修しながら「本当に教師に向いているのか？」「本当に教師になりたいのか？」等、教職課程の履修についてよく考え、2 年次から本格的に教職課程の履修を開始する。下表に科目等履修生は含まない。

＜学部＞

学　部	学　科	1年次(※1)	2年次	3年次	4年次	合計
文　学　部	日本語日本文化学科	23	16	8	8	55
	英語文化学科	15	9	4	7	35
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	－	2	3	2	7
人間科学部	心理学科	－	2	3	10	15
	総合子ども学科	177	161	142	148	628
	文化社会学科	－	3	2	1	6
	生活環境学科	－	1	0	1	2
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	25	16	14	22	77
医療栄養学部	医療栄養学科	8	9	－	－	17
計		248	219	176	199	842

※1１年次の履修者数については、幼稚園・小学校課程は免許状取得希望調査の結果に基づき、中学校・高校・養護教諭課程は授業「教職論」履修者数に基づく。

※2 医療栄養学科は 2018 年度開設のため 3～4 年生該当者なし。

(3) 介護等体験者数

2019 年度は、特別支援学校 26 校、社会福祉施設 57 か所にて体験を行った。

介護等体験終了後に、特別支援学校教諭に関心を抱く学生も複数名おり、介護等体験が学生にとって非常に有益な体験になっていることがうかがえる。

学　部	学　科	特別支援学校	社会福祉施設
文　学　部	日本語日本文化学科	8	8
	英語文化学科	5	5
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	5	5
人間科学部	心理学科	4	4
	総合子ども学科	64	64
	文化社会学科	3	3
	生活環境学科	1	1
合計		90	90

(4) 教育・養護実習生数

＜学部・学科別＞

学　部	学　科	幼稚園	小学校	中学校				高校				実習生数
				国語	英語	社会	養護	国語	英語	社会	養護	
文　学　部	日本語日本文化学科			6				5				11
	英語文化学科				2				5			7
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科				3							3
人間科学部	心理学科					9				2		11
	総合子ども学科	113	35									148
	文化社会学科					1						1
	生活環境学科					1						1
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科		14				5				4	23
合計		113	49	6	5	11	5	5	5	2	4	205

※中高一貫校に教育実習の場合は、中学、高校ともに数に含んでおります。

＜地域別＞

都道府県	幼稚園	小学校	中学校	高校	養護	合計
茨城県		1				1
福井県	1					1
静岡県				1		1
三重県					1	1
京都府	3	1				4
大阪府	48	15	6	3	6	78
兵庫県	41	12	9	6	12	80
奈良県	5	2	1			8
和歌山県	1		1	1	1	4
島根県	1		1			2
岡山県	2	1	1			4
広島県	2					2
山口県		1	1			2
徳島県		1	1		1	3
香川県	7	1				8
愛媛県	1					1
高知県	1		1	1		3
佐賀県					1	1
合計	113	35	22	12	22	204

※看護学科は前表では中高一貫は中学、高校でそれぞれカウントしたが、今回の表では区分けしていないため合計数にずれが生じている。

(5) 保育実習生数

保育実習ＩＡ・ＩＢでは、近畿地方を実習地と限定している。
保育実習Ⅱ・Ⅲでは、卒業後に保育士としてＵターン就職を希望する学生について、保育士養成課程の担当教員と面談を実施した上で近畿圏外での実習を認めている。

＜学年別＞履修者数

履修者	保育実習ＩＡ	保育実習ＩＢ	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ	合計
総合子ども学科2年	120	120			240
総合子ども学科3年	1	1			2
総合子ども学科4年			75	32	107
計	121	121	75	32	349

＜地域別＞実習件数

地域		保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ	合計
石川県				1		1
福井県				1		1
滋賀県				1	1	2
京都府		1	9	2		12
大阪府	大阪市	10	16	4		30
	その他	32	29	22	6	89
兵庫県	神戸市	21	34	12	10	77
	その他	52	30	25	13	120
奈良県		5	3	1	1	10
鳥取県					1	1
島根県				1		1
香川県				3		3
愛媛県				2		2
計		121	121	75	32	349

※保育実習ＩＡ・ＩＢについては、原則、２年次に１名の学生がＩＡとＩＢの２科目を履修し、２ヶ所で実習を行う。

(6) 教員免許状取得者数（一括申請）

本学教職課程における、2019 年度学部卒業生の免許取得状況は、取得件数の合計が 290 件、取得者数の合計が 198 名となっている。また、保育士資格取得者数は 107 名である。

（参考…前年度実績：免許状取得件数 230 件/取得者数 157 名，保育士資格 103 名）

＜学部＞

学部	学科	中学校一種				高等学校一種				幼稚園一種	小学校一種	養護一種	教員免許取得件数	実人数	保育士資格
		国語	英語	社会	計	国語	英語	公民	計						
文学部	日本語日本文化学科	9			9	8			8				17 件	9 名	
	英語文化学科		5		5		5		5				10 件	5 名	
	多文化コミュニケーション学科		2		2		2		2				4 件	2 名	
人間科学部	心理学科			10	10			10	10				20 件	10 名	
	総合子ども学科									146	67		213 件	148 名	107 名
	文化社会学科			1	1			1	1				2 件	1 名	
	生活環境学科			1	1			1	1				2 件	1 名	
看護リハビリテーション学部	看護学科											22	22 件	22 名	
計		9	7	12	28	8	7	12	27	146	67	22	290 件	198 名	107 名

＜大学院＞

研究科	専攻	中学校専修				高等学校専修				幼稚園専修	小学校専修	教員免許取得件数	教員免許取得者数
		国語	英語	社会	計	国語	英語	公民	計				
人文科学総合研究科	言語・文学専攻												
	心理・教育学専攻									1	1	2 件	1 名
	社会・文化環境学専攻												
計			0		0		0		0			2 件	1 名

※いずれも、個人申請件数は含めない。

(7) 学校教員および保育士就職状況

106 名が教員・講師として就職した。昨年度と同様、私立こども園・幼稚園教諭の就職者数が最も多い。中学校・高校教諭や養護教諭を目指す学生も増加傾向にあるため、採用試験突破に向けて大学として支援を強化していく。

＜公立学校教員・保育士＞

学　部	学　科	雇用形態	教員就職者数				保育士
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	保育園
文　学　部	日本語日本文化学科	教諭					
		講師				1	
	英語文化学科	教諭			2		
		講師					
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	教諭					
		講師					
人間科学部	心理学科	教諭					
		講師				1	
	総合子ども学科	教諭	6	6			4
		講師	1	10			1
	文化社会学科	教諭					
		講師					
	生活環境学科	教諭					
		講師					
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	教諭					
		講師		1			

＜私立学校教員・保育士＞

学　部	学　科	雇用形態	教員就職者数				保育士	
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	保育園	施設
文　学　部	日本語日本文化学科	教諭						
		講師				1		
	英語文化学科	教諭						
		講師						
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	教諭						
		講師						
人間科学部	心理学科	教諭						
		講師						
	総合子ども学科	教諭	46				26	
		講師						
	文化社会学科	教諭						
		講師						
	生活環境学科	教諭						
		講師						
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	教諭						
		講師						

※こども園は幼稚園に計上する。

２．学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座の実施について

保育の場における実践的な技術を身につけるとともに、子どもへの理解を深める機会として、教職支援課所属教員による『幼保実践講座』を開講している。下表の講座は事前申込の上、お昼休みに実施している。

『赤ちゃんを抱っこしよう・おむつを替えてみよう』は、下表の実践講座以外に、保育実習ＩA・ＩBを履修する学生全員（110名）に指導を行っている。第５回の同講座は、実習を控える学生向けに復習も兼ねて提供した。第２回、第７回については、講座時間内に作り終えず、空き時間に教職支援課を度々訪れ、フリースペースで制作に取り掛かる学生が複数名見られた。

○講座終了後のアンケート（一部）

・楽しく遊びながら学べたのでよかった。２年生の実習前にまた参加したい。
・実習で使える遊びのバリエーションが増えました！
・とても簡単に楽しいおもちゃができて嬉しかったです。
・ブラックライトがすごくキレイで盛り上がりました。帰ってから作ります。
・とても楽しかったです。新しい縫い方を知れました。
・どうしたら要領良く作ることができるのかを教えて下さり、キレイにできる方法を学ぶことができました。

＜教職支援課内講座＞

No.	開催日	講座名	参加者数
第1回	5月23日（水） 5月24日（木）	なかよし遊びで楽しもう！	7 名
第2回	5月30日（水） 5月31日（木） 7月４日（水）	集会に役立つ遊びをしてみよう	5 名
第3回	6月6日（水） 6月7日（木）	手袋シアター、エプロンシアターを演じてみよう	5 名
第4回	6月13日（水） 6月14日（木）	簡単な手作りおもちゃやペープサートを作ってみよう	8 名
第5回	6月21日（木）	赤ちゃんを抱っこしよう・おむつを替えてみよう	0 名
第6回	11月21日（水） 11月22日（木）	パネルシアターを作ってみよう	7 名
第7回	11月28日（水） 11月29日（木）	フェルトを使って名札を作ろう	22 名
第8回	12月12日（水） 12月13日（木）	体を動かす遊びをしよう！	2 名

(2) 教員採用試験・公立幼保採用試験対策講座の実施について

教員採用試験および公立幼保採用試験の受験を検討している学生に向けた教職課程履修者への支援として、外部業者協力のもと学内で対策講座を開講している。

2018 年度には、中高の教職課程履修者を対象に、卒業後に教員を目指す学生たちのグループを立ち上げた。グループを『Teacher's Café』と名付け、英語文化学科・赤井先生のご指導のもと、教員採用試験突破に向けた勉強会を実施。7 月 31 日には、現職教員として活躍中の卒業生 4 名にお越しいただき、在学生との交流会を開催した。

＜学内講座＞

開催日	内容	対象者
2019年4月9日	2019年度　神戸市教員採用選考説明会	教職課程履修中の4年生
2019年4月12日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年9月25日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年10月2日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年10月9日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年10月15日	2019年度　豊能地区教員採用選考説明会	総合子ども学科2年生
2019年10月16日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年10月23日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年11月6日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年11月13日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年11月20日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年11月27日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年12月4日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年12月11日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年12月18日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2019年12月25日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2020年1月15日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2020年1月23日	教員採用試験　学内模試	中高教職課程履修中の3年生
2020年1月24日	合格体験談発表会	総合子ども学科
2020年1月29日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生

３．教員免許状更新講習の実施について

本学では、地域社会への貢献を果たすべく、平成 21 年より導入された教員免許状更新制において、8 月に更新講習を実施している。

＜日程および内容＞

領域	講習名	開催日時	時間数	対象者
必修領域	教育の最新事情	8 月 19 日(月) 9：00～16：10	6 時間	全教諭
選択必修領域	学習指導要領改訂の動向と求められる学校と授業	8 月 20 日(火) 9：00～16：10	6 時間	全教諭
選択必修領域	教育改革の動向と様々な問題に対する組織的対応の必要性	8 月 20 日(火) 9：00～16：10	6 時間	全教諭
選択領域	幼小中連携の食育推進にむけて　ー学校教育における食育実践の現状と課題からー	8 月 21 日 （水） 9：00～16：10	6 時間	幼稚園教諭・ 小学校教諭・ 中・高教諭（全科）・ 養護教諭・栄養教諭
選択領域	英語授業における スピーキング指導力アップ研修	8 月 21 日 （水） 9：00～16：10	6 時間	小学校教諭（英語専科） 中・高教諭(英語科)
選択領域	学校現場における気になる子どもの理解とその対応	8 月 22 日 （木） 9：00～16：10	6 時間	幼稚園教諭・ 小学校教諭・ 中・高教諭（全科）・ 養護教諭・栄養教諭
選択領域	教員の力量向上とその課題	8 月 23 日 （金） 9：00～16：10	6 時間	幼稚園教諭 小学校教諭
選択必修	古典文法を見直す	8 月 23 日 （金） 9：00～16：10	6 時間	小学校教諭（全科） 中・高教諭(国語科)
選択必修	子どもの健康課題についてケースメソッド教育で学ぶ	8 月 23 日 （金） 9：00～16：10	6 時間	幼稚園教諭・ 小学校教諭・ 中・高教諭（全科）・ 養護教諭・栄養教諭

４．各種体験記

教育実習の感想・反省【幼稚園教職課程】

人間科学部　総合子ども
秋山　のぞみ

私は、この幼稚園実習を行うまでは、座学で得た幼児の知識しかありませんでした。今回の実習で初めて 4 歳児について実践的に学ぶことができました。
実習が始まった日の観察で､昨年の保育実習で関わった 2 歳児とはまるで違い驚きました。具体的に感じた違いは、まず、大抵のことは子ども自身ができるようになっている上に、自分でやろうという気持ちを強く持っているという所です。また、保育者と子どもの縦のつながりはもちろんありますが、子ども同士の横のつながりが濃く、生活や遊びの場面で子どもが一緒になって同じことに取り組む姿が多いということです。このような違いを知り、率直に言って、私は何の援助をすれば良いのか、私に何かできることはあるのか不安になり戸惑ってしまいました。2 歳児は出来ないことがハッキリと分かり、保育者との関係づくりに時間をかけ、直接的で具体的な援助が見えていた。しかし、出来ないことを補う援助だけが保育者の役割ではないことに気づき、初めは子ども達と先生方のかかわり方などをよく観察すること、子ども達と積極的に笑顔で関わることから意識しました。すると徐々に 4 歳児の特徴や支援方法を知ることができました。自分なりに理解を深めたことで、子ども達に自信をもって関わることができるようになり、少しずつですが信頼関係を築けたように思います。「秋山先生」と呼びかけてくれて、沢山遊んでくれた子ども達には、とても感謝しています。また、部分実習の機会を沢山いただけたことで、実践、振り返り、計画を繰り返し行え、前回よりも上手くいった点や新たな課題などが見つかり、徐々に 4 歳児の伸ばしていきたい方向に合った支援を取り入れながら行えるよう工夫ができました。また、研究保育や全日実習に向けての準備も進めることができました。研究保育と全日実習はとても緊張しましたが、これらの実践でしか得られない様々な気づき、学びがありました。また、責任感を強く感じることができました。命を預かる仕事だからこそ、1 番大切な気持ちだと思います。そんな経験ができて良かったです。部分実習･研究保育･前日実習など様々な関わりを通して、4 歳児は出来ないことがハッキリと見えるわけではないからこそ、子ども達一人ひとりの理解を深め、子ども達の向かっている学びの方向と同じ方向を向くことが重要であると学びました。保育者が仕向けるのではなく、子どもの思いに寄り添うことで自然と伸びようとする気持ちが高まるのだと思いました。子どもと同じ方向を向き、より伸びようとする気持ちを補い、援助に努めたいです。その場に応じて補うにはどうすれば良いのかを即座に判断できるようになりたいです。そのためにも、これからもっと知識を身につけ、ボランティア等で実際に子どもと関わる機会を持っていきたいと思いました。
また、運動会という行事の時期に実習ができたことも嬉しかったです。実習前半の頃は室内で先生方と一緒に振り付けを確認することから始めていました。子ども達は、先生を

見ながら一生懸命取り組む中で友達と一緒に曲に合わせて踊る楽しさを感じているようでした。とても良い笑顔で取り組んでいて、見ている私まで嬉しくなり、頑張るぞという力を貰いました。練習を重ねていき、障害物を飛び越えたり走ったりするなど踊り以外の要素も取り入れられました。どのような反応を見せるのだろうとソワソワしたのですが、積極的に取り組む姿が見られました。それは、「忍者」という役になりきることで、楽しさややりがいを感じ、意欲が高まっているからだと思いました。子どもの意欲を高めるには、保育者の支援があってこそだと思います。場づくりや声掛けなどの工夫の必要性を改めて強く感じました。そして実習後半の頃には、全体での通し練習が始まりました。緊張しているような姿もありましたが、みんなに見てもらうことに嬉しさを感じているように見えました。練習の始まりや終わりに一人ずつ頑張る所を発表したり良かった所を褒めたりし、思いを共有することで、運動会への期待感がどんどん高まっているように見えました。そういった思いに添って、遊びの時間に忍者ごっこをしたり、手裏剣や忍者のお面を作ったりする姿が見られ、本当に忍者が好きなのだと思いました。また、通し練習は、発達の違う異年齢児を見る機会になり、この経験を通して憧れや思いやりの気持ちなど様々な思いを感じるきっかけになったと感じています。これは、園全体での活動ならではの経験であると思います。
本番は、踊りが成功することよりも子ども達に楽しかった、やって良かったという気持ちを沢山感じて欲しいです。一緒に喜んだり、十分に褒めたりしたいです。運動会の練習を通して保育者としての支援方法を知ると同時に、子どもの頑張る姿、成長する姿を知るとても良い経験ができました。

1か月という長い期間、実習をさせていただき本当にありがとうございました。大学の座学では絶対に学ぶことのできない貴重な学びが沢山ありました。より幼稚園教諭になりたいという夢が大きくなりました。これから、まだ何度か実習はありますが、今回の経験を活かし謙虚に、素直に、積極的に取り組みたいです。本当にありがとうございました。

教育実習の感想・反省【幼稚園教職課程】

人間科学部　総合子ども学科
辻　友梨奈

幼稚園実習の４週間という期間は、一日一日がとても早く、とても楽しい毎日でした。全９クラスある中、５クラスを担当し、様々な思いがいっぱいです。
5 歳児では、鼓隊パレードやリレー、敬老の日のご高齢の方との交流を体験しました。
運動会の取り組みは、夏休み前から取り組み、夏休み明けから多くなることをお伺いしていました。そのため、５歳児クラスでの 3 日間は、日々、子ども達の運動会の取り組みで成長を感じることが出来ました。また、保育者の掛け声で始まる運動会の取り組みは、子ども達の意欲が高められて、子ども達同士で応援する姿がとても印象に残っています。
外遊びの際には、保育者が子ども達と笑顔で、どのような遊びにも楽しみながら熱中し、子ども達と関わっていました。私にとって、そのことは簡単なようでとても難しく思いました。反省として、外遊びの際に、5 歳児以外の子ども達からの遊びの誘いを上手く断ることが出来ず、5 歳児の子ども達を困惑させてしまったっことです。
4 歳児では、パラバルーンやリレー、玉入れ、避難訓練などを経験しました。運動会の取り組みを園外のグラウンドで行っていたため、園外に行く際のお約束をします。道を渡る際は前後左右を確認し、手を上に上げるよう伝えるなど安全確保の大切さを学びました。
また、支援の必要な子どもに他の子ども達が協力してかかわる姿がとても印象に残っています。保育者が子ども達だけで出来ることを見守りながら、必要であれば援助すると子ども達一人ひとりの関わりが深くなり最後まで助け合うことが出来ることを学びました。
反省として、絵本や紙芝居を読む際に、子ども達の様子を伺いながら工夫をして読みすすめることが出来ず、時間が余ってしまったり、時間が大幅になくなったりしてしまったことです。年齢に応じた読み方をし、子どもの反応に応答したり、導入として手遊びをしたりすると、子ども達はさらに絵本や紙芝居を楽しめることが出来たと思います。
3 歳児では、ミニパラバルーンやリレー、ダンス、部分実習を経験しました。残り少ない期間での部分実習はとても勉強になりました。30 分という時間でしたが、反省点はたくさんあります。良かった点は事前の用意が出来ていたことですが、子ども達全員に対する声掛けや年齢に応じた関わり、制作が丁寧な子ども達への接し方、最後のまとめなど改善点がたくさんあります。部分実習を実際に行うと予想外のことが起こりました。その際に臨機応変に対応することが必要だと学びました。そのためには、たくさんの経験を積むこと、年齢に応じた関わり、材料や用具の配布・片付けの時間確保、説明する際に子どもの理解しやすい内容、活動に応じた展開の工夫など制作活動に対してもっと深く考え準備しておくことで、少しでも良い制作活動が出来たと思います。
今回の実習経験や部分実習の反省を踏まえて多くの課題が見つかりました。その課題を解決するため、勉学に励み、子ども達と関わる場へと参加し、座学で勉強したことを重ねて子ども達と関わりながら、経験を積んでいきたいです。５クラスを経験し、子ども達が率先して私に幼稚園でのお約束を教えてくれたり、手伝いをしてくれたりと子どもたちから接してくれることも増え、実習期間が短くなれば短くなるほど寂しい気持ちでいっぱいです。子どもたちとたくさん関われたことは一生の思い出となり、宝物です。そして、保

育者の方々には、毎日熱心に指導して頂き、本当に感謝しています。ご迷惑をお掛けしてしまったこともありましたが、貴重な 4 週間というお時間を頂き、誠にありがとうございました。立派な幼稚園教諭になれるよう、今回の実習経験を元に足りないところを日々勉学に励み取り組むよう努力します。

教育実習の感想・反省【幼稚園教職課程】

人間科学部　総合子ども学科
山﨑　かりん

１カ月の実習の中で、プール、クッキング、地域の施設訪問、誕生会、異年齢交流などとなかなか実習で経験出来ないような行事に参加し、子どものいろいろな姿を見ることが出来ました。３歳児は、好奇心旺盛で自分でできることが増える時期なので、そういった子どもの姿を見守り、自分で考えながら挑戦できる場面を多くつくっていました。子ども達は、身体をおもいっきり動かすことが好きで、室内でも積み木から飛んだり、戸外で走ったり、巧技台からマットにジャンプすることや遊具で遊ぶ姿、友達とやりとりを楽しみながら積み木を使ってごっこ遊びをしたり、折り紙で杖や剣を作って楽しむ姿が見られました。保育者はその遊びを発展させ、さらにその遊びの世界に入って遊ぶことができるよう子どもとやりとりをし、一緒に遊ぶだけではなく、的や小道具を用意していました。遊びがたくさん展開し、様々な経験や発見ができるよう、遊びの充実や環境構成は大切だと思いました。また、子どもと日々生活していく中で、声かけの大切さに改めて気づくことができました。遊びや活動、生活の中で子どもが「やりたい」と意欲ややる気、期待を持てるような関わりが大切だと感じました。子ども達は、身の周りのことを自分で行うことや保護者や友達の手伝い、片付けも積極的に行っていました。保育者は、そういった姿を大切にし、嬉しさや喜び、「またやりたい」と思うことができるように接していました。子ども達の行うスピードには個人差があり、それを無視して早くやるようにと何度も行為を促すような声かけは、子どもにとってもやらされている感があり、意欲も失い、保育者との関係も築くことができないと思います。しっかり子どもの様子を捉え、その時の子ども１人１人に合った対応をこれからも心掛けたいです。ヒントを与えると理解できたり、競争が好きだったり、驚いたらやる気が出たりとその日その日でやる気を持てる声かけややりとりは違いますが、意欲ややる気を持っている時の子ども達は、とても笑顔で楽しんでいる姿がありました。子どもがやりたいと意欲を持てるよう、意図的に声かけを行っていきたいです。日々の活動の中では、手遊びや絵本、踊りを使って活動の繋がりを持てるようにしていました。１つ１つの遊びや活動があるのではなく、１日の生活の流れの中での繋がりで自然にやりたい気持ちを引き出せるように、また、声かけや援助といった表面的に見えるものだけでなく、内面的に見えない所でも楽しく参加し、いろんな経験が出来るように工夫していることがわかりました。子どもにとって活動は遊びの延長線上にあります。日々の興味、関心や遊びの内容、やりとりをよく観察、把握して、子ども達の良さ・興味・関心を深める活動、身につけてほしい力・態度・能力を遊びの中に活動を活かしていることがわかりました。

日々子どもと関わり、観察し、学び得たことを踏まえて、部分実習、１日実習を行いました。部分実習では、子どもたちが楽しく降園し、昼食を楽しみ、１日への期待を持てることをよく考えました。短い時間の部分実習でも、子どもの姿の予想や対応は難しく、混乱することがありました。どんな時にも臨機応変に対応できるよう、色々な予想や対応、遊びを用意しようと思いました。この１か月の実習で特に勉強になったのは、やはり１日実習でした。初めてのことで不安もあったのですが、先生方の優しいサポートや子ども達が

自らやるべきことに気づき多くのことを教えてくれ、助けてもらいました。そのおかげもあり落ち着いて行うことができました。1回目の製作は子どもも落ち着いて作り、楽しんで飛ばす姿が印象的でした。2回目の模倣遊びでは、楽しんでいる子とそうでない子が分かれ、声かけが届きにくかったり、違う解釈をしたりと慌ただしい印象でした。どちらの1日実習でも、たくさん伝えに来る子や意欲的に活動している子など気になる行動をしている子ばかりに目が向いてしまい、その子達の思いや表現ばかりを認めていたことに気が付きました。普段の実習では、後方で自分なりに考えている子や静かに取り組む子、じっとして困っている子、1人では行動に移ることができない子に目を向け、そういった子どもが楽しめるよう一緒に徐々に活動に参加し、意欲を持てる声かけを行っていました。しかし、自分が主担当となるとなかなか気づくことができず、関わりや援助が少なく感じました。視野を広く持ち、出来る出来ないではなく、少しでも自分の表現がしやすい雰囲気をつくり、1人1人の姿を受け入れ、その時の状況に応じ遊び方を変えていきたいと思いました。また、表現がしやすいよう、イメージを持てるようにしたいです。模倣遊びでは、音や音色、歌を工夫し、表現するものが思いつきやすくイメージできるようにすることが大切だとわかりました。それぞれの子どもが自分のイメージ、世界観を持っています。模倣遊びだけでなく製作や普段の遊び、いろいろな活動において、自分のイメージ、世界観を表現できるよう見守り、子どもとやりとりをしていく中で遊びや活動が広がり深まることができるようにしたいです。やりとりやちょっとした遊びなど行う中で、子どものさまざまな姿に応じて、子どもの注目を集め、全員が楽しめるよう様々な角度からの声かけや遊びを今後展開したいと思います。1か月を振り返ると、最初は、朝は私の顔をじっと見て遊びの途中頃から話をたくさんしてくれる子や、甘えてくる子など様々でした。日に日に特定の子だけではなく、たくさんの子ども達が「かりん先生」と呼んで来てくれるようになり、部分実習、1日実習を重ねるごとに、朝は元気に挨拶をし、困ったことがあると頼ってくれるようになりました。日々、子どものいろんな姿を見て、積極的にやりとりし、子どもの気持ちや思いに寄り添うことで、全員が心を開いてくれるようになり、とても嬉しかったです。様々な経験や体験、発見、身体能力の発達、感情などの心の育ちを、遊びや活動を楽しむ中で自然に身につくよう、見守りと援助のバランスを考えたいです。喜びや嬉しさ、満足感、幸せ、期待、楽しさをたくさんの経験を提供できる保育士になりたいです。毎日が充実していた楽しい実習をありがとうございました。

目指す養護教諭像と私が考える養護教諭に求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護リハビリテーション学部　看護学科
青野　咲良

１　目指す養護教諭像

私は、子どもたちに受容的な態度で接し、子どもたちの気持ちに寄り添える養護教諭になりたいと考えていた。しかし、授業の中で「子どもたちにとって受容的な態度とは？」「子どもたちの気持ちに寄り添うとは？」と具体的に尋ねられた時、私は明確に答えることが出来なかった。また、養護教諭には看護の専門的な知識が必要であると考え、看護学科から養護教諭を目指した。しかし看護の専門的な知識だけでなく、看護で最も必要とされている「相手の立場に立って考える」ことは、子どもたちの視点に立ち、働きかけることと共通しており、大切にすべきだと考える。それは子どもたちの気持ちに寄り添うことにも繋がることを「養護実習」で確信した。

「養護実習」で小学 4 年生の A くんとの出会いが私の養護教諭像を考えさせるきっかけとなった。A くんはこれまで毎日楽しく学校生活を送っていたが、家族のことで悩みを抱え、保健室に来室する回数が増え、1 日中保健室に居る日や学校内を逃走する日が多くなった。初めて A くんに挨拶をした時、A くんは鋭い目つきで私を見るだけで、反応はなかった。しかし、A くんは次第に私の問いかけに頷いたり、「おはよう」と挨拶をしてくれたり、最後には悩みを打ち明けてくれるようになった。この経験から、子どもたちにとって受容的な態度とは、1 人 1 人異なっていることに気づいた。私は A くんに積極的に話しかけ、話しやすい雰囲気作りを心がけていた。結果的に、それは A くんにとって受容的な態度であったと考える。しかし子どもたちの中には、保健室に来室することに抵抗がある子や相手に自分の思いを伝えることが難しい子もいることも理解した。そのような子どもたちには、一声かけて「いつでも話を聞くよ」といった姿勢を示すことがその子にとっての受容的な態度であると学んだ。

２　養護教諭に求められる力

私が考える養護教諭に求められる力は次の 2 点あげられる。

1 つ目は、管理職や学級担任、保護者との連携に必要なコミュニケーション力である。先の事例 A くんの場合、養護教諭は管理職や学級担任、保護者と A くんの対応について話し合っていた。そして、毎朝 A くんが学級担任とその日に受ける授業を一緒に決め、その時間になると養護教諭や管理職が A くんを教室へ促すといった対応を取っていた。また放課後には、管理職や学級担任と A くんの教室や保健室での様子を互いに情報共有し、学級担任が学校での A くんの様子を保護者に伝えていた。子どもたちの本来の居場所は教室であり、保健室は一時的な居場所である。そのため、子どもたちが安心して教室に戻り、楽しく学校生活を送ることが出来るような働きかけを行っていくためにも、連携できるコミュニケーション力が必要になってくると学んだ。

２つ目は、的確な判断力である。「教職実践演習」では、家庭の経済的な問題を抱えた B

さんが体調不良であったにも関わらず、修学旅行に参加しようとしている事例についてケースメソッド教育で討論を行った。B さんの生活背景を考えると、修学旅行に参加させてあげたい気持ちが強く、事例内の養護教諭も B さんを修学旅行に参加させた。すると修学旅行先でインフルエンザが蔓延し、修学旅行は中止となった。このことから、子どもたち全員の健康を守ることが養護教諭の役割であるため、現時点だけの状態を見て判断するのではなく、これから先どのようなことが起こる可能性があるのかを推測し、判断していく力が必要であると学んだ。

私は、様々悩みながらも、最終的には卒業後、まずは看護師として社会に出ることを決断した。看護師においても他職種と連携する力や的確な判断力が求められる。医療現場で養護教諭に求められると考える２つの力を身につけて、将来、目指す養護教諭になれるように頑張っていきたい。子どもたちに受容的な態度で接し、子どもたちの気持ちに寄り添うことができる、そのような養護教諭を目指してこれからも頑張っていきたいと思っている。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護リハビリテーション学部
看護学科　岩淵麗

養護教諭が学校で求められる力とは、専門性、危機管理能力、コミュニケーション力の高さと児童理解の深さだと考える。その理由としては、養護実習で、指導の養護教諭の保護者対応等から、学級担任や学校管理職と連携し、慎重に初期対応することの大切さを学んだことによる。また、指導の養護教諭は保健教育に熱心な方で、保健の授業だけではなく、様々な場で、保健指導を実施されていた。そこから、養護教諭も「教諭」であるため、児童の保健・健康面の自己管理能力を育成することも大切な役割であることを実感した。私も養護実習期間中には、保健教育を実践する機会をいただき、テーマの選定、対象を考えた指導内容と指導方法を盛り込んだ指導案の作成、効果的な教材の選定と作成を経験することができた。伝えたいことを児童に理解してもらうためには、知識と技術が必要で、自分には足りない点が多すぎて本当に難しく感じた。しかし、養護教諭が保健教育を行うことの意味はとてもあると感じたため、実際に養護教諭として現場に立ったときには周りの先生の力を借りながら、積極的に参加し、経験を積んでいくべきだと感じた。

次に養護実習を終え「教職実践演習」の授業で学んだことを述べる。少人数のワークによって、自分とは違う考えを持つ他の学生の意見を聞くことの大切さと、一方で自分の意見を伝えることが苦手であるという自己課題を感じた。特にケースメソッド教育による演習から、養護教諭が行う健康相談では、子供の背景要因を知り色々な可能性を予測し判断することや、教職員と連携することが必要だと学んだ。

ゲストスピーカーの指導養護教諭と教育委員会の先生からは、学校危機管理について、全てのことを多面的に捉え、周囲に「報（告）・連（絡）・相（談）」をすることの大切さを教えていただいた。また、養護教諭自身は看護師と同様に感情労働をするため、支援者であり続けるためのストレスマネジメントが大事であることや、「感謝されることを目的に行動しない」などの心構えを学ぶことができた。元管理職であった教育委員会の方にしていただいた講話では、職員が養護教諭に求めるのは、専門性とカウンセリング技術と開かれた保健室作りだと教えていただいた。また、児童理解に関して、困りごとのある児童を「普通」という視点で捉えて線引きをしないように、常に心得ておくことの大切さを学んだ。また、頻回来室者の情報を取り入れ、その児童が皆と一緒にできるように支援していくことの大切さも学んだ。「困りごとのある児童を支援することは、えこひいきではなく、目が悪い子に眼鏡をかけてあげることと同じように、その児童の困難に対応していくことだ」というように仰っていて、とても納得できた。すべての児童が過ごしやすい環境を整えていくためにも、周りの児童にも理解が得られるように説明していくことが必要だと思った。

最後に、４年間の教職課程の講義・演習や教育実習を通して、私は「信頼される養護教諭」を目指していきたいと考えている。シンプルだが、一人職種で学校の保健管理を担い判断をする場面も多く、責任の大きい養護教諭には本当に難しいことだと思う。この信頼とは児童生徒からも、教職員からも、保護者からも得る必要があり、そのためには前述し

たような専門知識、危機管理能力、コミュニケーション力の高さ、児童理解の深さが必要だと考える。私自身ははまだ課題が山積みであるが、特に危機管理能力とコミュニケーション力が自分の課題だと捉えている。養護実習で実際に見て学んだことや講義や演習で学んだことを振り返りながら、課題を克服し成長していきたい。まず、自分の進む道で自分の課題と向き合い、新たな強みを身に着け、養護教諭課程で学んだことを生かせるように生きていきたいと思う。社会に出て、前述した自分の目指す養護教諭に近づけるように、強い気持ちを持って努力していきたい。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護リハビリテーション学部
看護学科　幸林　ひかり

養護教諭に求められる力については何度も授業で学んできた。養護実習では実際に教育現場に入り、児童と関わることで、実感を伴う学びを得られた。

養護実習では、保健室に来室した児童の対応を主に行っていたが、指導養護教諭は怪我をした児童であれば、なぜ怪我をしたのか、どのようにしたら次は怪我を回避できるのかを児童と考えていた。単に的確な怪我の処置が行える、体調不良を訴える児童に対して的確に対応できるだけでは、教諭としては不十分であると実感した。養護教諭は身体に関する専門性を持っていることから、アセスメントを行い、その場での的確な判断、適切な対応を行えることは必要不可欠であり、実習中にも実感した。また、教諭と言う立場から、児童の健康管理能力を高めるための関わりも重要であると考える。実習中に指導養護教諭が行っていた、怪我の原因や今後同じ怪我を繰り返さないようにするために児童自身がどのようにすると良いか一緒に考えるということは、この教育的指導にあたる。この際に、養護教諭が先に答えを示すのではなく、児童が主体となり考え納得できるよう支援することが重要である。この関わりの中でどのように児童に伝えるか、伝え方が重要であるということは教職実践演習で改めて学んだ。児童達の自ら考え学ぶ機会を奪わず、児童自身が主体的に考えて行動できるような関わりが重要であり、児童にとってこの関わりが有効的に働くような関係性も日常的に築いていくことで、養護教諭として児童と共に学ぶという姿勢も必要であると学んだ。

また、養護教諭は保健室にいることが多いが、来室する児童は全校児童の一部である。また、保健室で把握できる児童の様子も限られている。児童の全体像を把握するためには、養護教諭が保健室から積極的に出ていき、直接児童を観察する機会を作ることや、教職員間の情報共有が必要であると考える。児童が保健室に来室した際にも、日々の児童の様子を把握していれば、その差異を基にアセスメントを行うことができる。ただ単に、その時の症状に対応するのではなく、児童１人１人に対して個別的な対応も求められる。そのためには、児童の痛さや辛さ、日常の友人関係等も考慮した上で、対応することが重要であると実感した。教職員間の情報共有では、児童の教室での様子や家庭環境等の背景等、学校生活を送る上で困難感がないか把握し、支援に繋げていくことが重要であると考える。また、保健室での様子も積極的に担当教員と共有していくことで、学校全体で支援していくことに繋がる。養護教諭だけの目ではなく、児童に関わる様々な教職員からの情報から、児童を全体的に捉え、関わることが重要であることを学んだ。

目指す養護教諭像は４年間の学びを通してより具体的になった。また、養護実習で児童と関わることで、子どもがより健康に学校生活を送れるよう、子ども達のために働きたいという思いが強くなった。４年間の学びを通して、記述した求められる力のあるような養護教諭になること、子どもの心身の状態を的確に捉え、受容的に関わり、子どもが自ら考え学ぶという過程を支援できる養護教諭になりたいと考える。

４年間の学びを通して、養護教諭として子ども達から期待されること、教職員から期待

されること、それぞれの立場からの想いを学ぶことができた。その上で養護教諭に求められる力は多岐にわたることも学んだ。今後身に付ける必要のあることも多く、実際に子どもと関わりあう中で身につく力でもあるため、現場で実践を積み、目指す養護教諭像に近づくよう今後も研鑽していきたい。

養護実習を終えて

甲南女子大学　看護リハビリテーション学部看護学科4回生
K5116010　岩淵麗

実習校の概要

・西宮市立小学校
・設立：1931年
・児童数：675名（24学級）
・学校環境：住宅、駅、公園などが多い
・教育目標：
豊かな心を表現できる児童を育む

実践内容

・来室者対応
・保健教育（特別支援学級）
・掲示物、保健だより作成
・身体測定　補助・実施
・視力測定　補助・実施

来室者対応

・1週目：見学と連絡カード
・2週目：擦り傷等簡単な処置
・3週目～：先生に見てもらいながら対応

・大切なこと
☆初期対応
☆担任、管理職への報・連・相

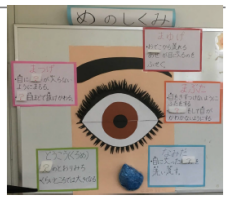
保健教育（特別支援学級）

・内容の決定
・指導案の作成
・使用教材の作成
・実施
・先生からの評価・反省

掲示物・保健だより作成

・保健だより（10月）
　感染症
　目の愛護デー

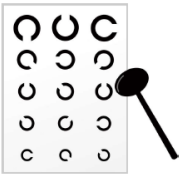
・保健室前の掲示
ハンカチを持ってこよう
目のしくみ



身体測定・視力測定

・限られた時間の中で行う
→実施前の説明が大切

・機械的な対応にならない
→児童の緊張を和らげる工夫
（表情・声掛け等）



学んだこと・反省

学んだことはたくさんありますが、専門職としての養護教諭の役割と職員間のコミュニケーションの大切さは特に強くなったと思います。養護教諭は高い専門性を持ち、学校の中で保健に関して1番知識と技術を持って学校全体の健康を守る存在でなければなりません。

そのため、来室者の初期対応や救急処置などの知識技術を日々磨いていくことはもちろん、保健教育で児童・先生に掲示物や保健だより、授業等あらゆる手段通じ児童の保健・健康面の自己管理能力を育成していくことは養護教諭の大切な役割だと学びました。その時に重要なのは、発達段階を考慮して言葉選びをするなど、わかりやすく伝えることです。私は意識したことと関わることがないので、実習に行って関わってみて、学年ごとの発達段階の違いを感じられてよかったです。

職員間のコミュニケーションでは日ごろから児童生徒や先生方、学校医、学校薬剤師、保護者とのコミュニケーションを継続的により、情報を共有し、共通理解を図り、何事も組織的に対応していくことが大切だと学びました。1人職種であることが多い養護教諭はつながりを持ち良好な関係を保つことが大切だと思います。

反省としては、身体測定の会場の写真や、体育祭の救護テントの中の写真などの写真を撮り忘れたことで、前もって考えておかないと、急に大きなけがが出て忙しくなることもあり、写真を撮るチャンスは限られていることが多いので、2年生の皆さんは気を付けて頂いたいです。また、出席停止になる疾患や学校環境衛生に関してなど、先生から質問されて答えられないことがあって、それは実習生として最低限準備しておく知識だったなと感じました。

養護教諭をめざす人に伝えたい事

まだ教員採用試験も先のことで、全然考えてないって人もいると思いますが、自分が受ける自治体の傾向を調べてみたり、例えば兵庫は1次で集団討論と筆記（教職教養と一般教養の共通問題、専門の問題）があるんだな、とかを見たらいいなと思います。対策も、早ければ早いほうがいいと私は思うので、できる人はやったらいいと思います。

今、養護の講義を受けていると思いますが、すごく大切なところを教えてくださっているので、毎日大変だとは思いますが、ちゃんと聞いて、資料をまとめておくといいと思います。授業を作ってする講義もあると思いますが、実習のときにその時の経験が生きてくると思うので頑張ってください。

養護実習を終えて
2019年10月16日（水） 5116039 幸林 ひかり

① 実習校の概要
三田市小学校
全児童数 182名（9学級）
教育目標 豊かな心とたくましい
体をもって、よく学び、
自ら進んで取り組む人
間性豊かな児童を育てる
学校環境 学校周辺：幼稚園・医療機
関・住宅地
校区内：高校・大学

保健室
職員室の隣
教室から運動場・体育館の間に位置
校庭に面する入口
下駄箱・運動場が見える
運動場
管理棟
プール
南館
中庭
北館
体育館

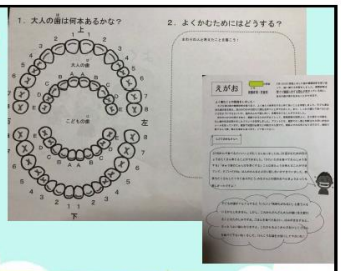
②実践内容
来室者対応
擦り傷・打撲・突き指・虫刺され
腹痛・頭痛
相談
あいさつ運動
手洗いの掲示物

歯科健診
問診表の確認
物品の確認
会場準備
検査票の記録
結果のおしらせ作成
眼科健診
問診票の確認
会場準備
待つ児童の指導
結果のおしらせ作成

小学校における集団検診の工夫

歯に関する保健教育

- 保健指導
- 給食時の指導
- むし歯について



③実習で学んだこと

- 保健室・養護教諭の存在
- 傾聴・受容の大切さ
- 適切・的確な判断
- 連携（教職員・保護者・校医・SC等）
- 待ちの姿勢ではない

「社会福祉施設における介護等体験の感想とまとめ」

文学部　英語文化学科
山脇　海梨

今回の介護等体験を通して学んだことはいくつかある。
まずは、目線を合わせて会話することだ。今回、介護等体験でお世話になった芦原サービスセンターでは様々なバックグラウンドを持った利用者の方々や、利用者の方によって違う様々な入居理由があった。バックグラウンドについては、一人暮らしをしていて、家族がいらっしゃらず毎日利用している方、また、基本的には認知症の方が多くみられたが、高齢で足腰が思うように動かすことができず、入浴介護が必要な方、または、上半身に麻痺があり食事介護が必要な方が多く利用していた。認知症の症状がひどく、うまく話すことができない利用者の方も数人利用していた。また、ベッドで寝たきりの方も利用されていた。とくに私にとって、こういった利用者の方とどうコミュニケーションを図るかが課題だった。
デイサービスや介護を体験するのは初めてで、初めは反応が返ってこず、うるさいと思われていないか、話したい気分ではなかったらどうしようと少し戸惑ったが、目線を合わせ話かけていくうちに、少しずつ表情が変わりはじめ、私に微笑み、話かけてくれることが多くなったと感じた。コミュニケーションを図るうえで大切なのは言語だけではないと改めて感じることができた体験だった。
この時同時に感じたのが、様々な人々たちと平等に関わっていくことが大切だと気付いた。教師という仕事は授業を行うことや、勉強のアドバイスをするだけではない。どんな生徒であっても平等に接する必要がある。今回の介護等体験でお世話になった施設でも比較的おしゃべりが好きで元気な利用者の方、毎日利用者の方から話しかけてくださるような方も多くいたが、前述のように話すことができない利用者の方や、話すことがあまり好きではない方もいた。その中でどのように接していくかが、もう一つの課題だった。そういった方にはレクリエーションの参加を促すようにしたり、お茶やお昼ごはんを持っていく際に、天気について話したりしていると、私のことを覚えてくれていた。
もう一つこの体験で学んだことは、一人ひとりにあった対応をすることだ。私たちにとっては当たり前の食事や入浴などは、利用者の方にとっては大変なことだ。しかし、大変だからといって全て手伝ってしまうと、できたことができなくなってしまう可能性がある。利用者の方々がそれぞれ持っている可能性を私たちが手出しして潰してはいけないと感じた。
これは、教師にもいえることだと考える。生徒自身が主になってそれを手助けできる教師になりたいと感じた。

「特別支援学校における介護等体験の感想とまとめ」

人間科学部　総合子ども学科
藤井　有梨沙

今回の介護等体験で一番印象深かったことは、職員の方と子どものコミュニケーション方法です。私は今まで、主なコミュニケーションは会話だと思っていました。しかし、子どもの中には話せない子や上手く体が動かせない子がいます。そのような子どもには会話以外でコミュニケーションをとることを知りました。

私は、積極的にコミュニケーションをとることを目標としていたので、子ども達と早く慣れるために話しかけたり、同じ空間で遊んだりしていましたが、話せない子とは上手く関わることが出来ず、なかなかコミュニケーションをとることが出来ませんでした。しかし、職員の方の接し方を見て言葉以外のコミュニケーションがあることに気づきました。

歌をうたう時に一緒に手を繋いだり、出席確認の際に笑顔で顔を見て名前を呼んだり、背中をさすったりと様々でした。視覚や聴覚で感じられる工夫として、紙に書いてある絵を見せながら説明をしたり、様々な場面で使われる挨拶の歌を通して楽しさを共有したりしていました。一日の中で規則的なコミュニケーションをとることで、文字が読めなくても形や色などで子ども達が明確に理解することができるような工夫がされているのだと思いました。

２日間という短い間でしたが、子ども達の成長や優しさ、可愛らしさを沢山感じ取ることが出来ました。バスで移動した時の出来事で、子ども達が降車する際「ありがとうございました」と挨拶が出来るようになり、暑い日にうちわをみんなの方に向けて扇いでくれたりしている姿や、座席に書いてある鶏の絵に向かって「暑かったね。大丈夫？」と声をかけている姿を見て、とても感動しました。さらに、子ども自身で自分の体調管理をしっかり行い、「暑いから水飲んでいい？」と水分補給をしていました。

職員の方は常に目配りをされていて、一人の子どもとだけ関わっていることはなく、みんなの前でいつも決まったところに居て子ども達の様子を見ていました。子どもの行動に対して、いけない事はなぜいけないのか理由を詳しく説明し、良いところは「いつも自分でお仕事見つけてやってくれてありがとう」と、出来た事には「〇〇ちゃん、それ、まる！」と声をかけていました。わかりやすい言葉で端的に褒めることでより伝わりやすくなることを知りました。援助で気をつける点として、自立を妨げるような押し付けや援助の行き過ぎに気をつけて、自主性、自立性を養えるように少しの援助としっかりとした見守りが大切だと感じました。一人ひとりに合わせてご飯を細かくしていたり、子どもの興味のあるものを大切にし、こだわりを持つ子には対応を変えたり、なかなか部屋に入ってこない子にはドアを開けっ放しにして外からでも参加できるようにしたりと、より良く過ごすための配慮が沢山ありました。職員の方の接し方から学んだことで、お弁当を食べることが遅い子に「これ食べたらなんか下から見えてくるよ！」と食べることに期待が持てるような声掛けをすることや、子どもが好きな楽器をうちわで見立て楽しかった思い出を振り返ることなどを試してみるとスムーズにできたこともあったので、子どもとの距離が少し縮まった気がして嬉しかったです。また、表情も大切にしようという目標があったので、笑顔で接することを心がけていました。やはり子どもはこちらが楽しそうにしていると安心してくれるのではないかと感じました。いけないことをした時には表情を曇らせるなど、場面にあった表情で

伝えることもコミュニケーションだと思いました。今回の介護等体験で子ども達と様々な接し方や、教師になった時にどのような配慮が必要かなどを職員の方や子ども達から学び、体験前と後では考え方が変わりました。難しいと感じたこともありましたが、それ以上に子どもが可愛く、大変貴重な体験が出来ました。

合格体験記

文学部　英語文化学科
宮永　青空

1.はじめに

私は、神奈川県の教員採用試験に合格いたしました。合格体験記として私の大学受験や大学生活、教員採用試験などについて述べたいと思います。

2.大学受験について

まず私は高校一年生の頃から教師になることを考え始めました。しかし特に勉強に力を入れることもなく楽しく高校生活を送っていました。さらに高校三年生の時、人より遅めの反抗期に入りました。当時は国公立大学を志望していましたが、大学受験について考えることも、親と話すことも、勉強することも嫌になりました。進路について一番相談しなければならないこの時期にこういった状況になってしまったため本当に大変でした。そんな中、国公立大学の推薦入試を受けたのですが、もちろん不合格でした。私は覚えていないのですがその時「別に就職でもいい。」と言ったそうです。今思えば、自分自身どうしたらよいのかわからなくなってパニックになっていたのだと思います。その後さまざまな大学を一般受験しなんとか甲南女子大学に入学することができました。入学時には、「大学受験で親にもたくさん迷惑をかけ、自分自身も苦労したので次の就職活動で絶対に同じ失敗をしてはいけない。」という思いが強くありました。そこから私の大学生活がスタートしました。

3.大学生活について

まずは、当然のことをきちんとするという事から始めました。時間割に関して、限られた授業数で取れるだけの授業を取ること、無遅刻無欠席、テストでよい点数を取る、英検やTOEICの勉強をするなどです。高校生まで当たり前にできていたことが大学生になるとしんどく感じることが多くあります。自由が増える分、授業に出ずに友達と遊びに行くこともできるというような誘惑が多くあるからです。しかし私は、そういったことをしている暇はない、と感じていました。思い切って個人でボランティア活動にも参加しました。私がそれだけいろいろなことに挑戦できたのはやはり大学受験の経験だと思います。ただ、勉強ばかりしていても、というところも正直あったので部活動やサークル活動、アルバイトもたくさんしました。憧れていたよさこい部、他大学のアカペラサークル、バレーボールサークル、軽音楽部への所属、そして上記したボランティア活動で出会った仲間とボランティアサークルを立ち上げたりもしました。毎日頑張っているとたくさんの先生に私の存在を認識していただくことができ、たくさん応援していただけるようになりました。

そうこうしていると、次のステップである「就職」を考えなければいけない時期になりました。教職の授業を受けている友達のほとんどが教員採用試験の勉強と就職活動を並行するという方法でしたが、私は教員採用試験のみに絞りました。3年生終了間近の3月ごろに東京アカデミーの講座を受け、本格的に準備を始めました。一般教養と教職教養があり、社会科が得意ではなかった私は正直「今年の教採は合格できないかもしれないな。」と感じていました。しかし、諦めるには早すぎると思い一生懸命勉強を続けていました。4年生の4

月、大学から「神奈川県や横浜市、大阪府から教員採用試験の推薦枠の募集がある」というメールをいただき、推薦の受験資格をすぐに教職支援課へ確認しに行きました。TOEIC800 点以上、英検準一級以上、成績いくら以上などたくさんの条件がありました。私は「これはチャンスだ！」と思い申し込む気満々だったのですが、神奈川県であることもあり、一応家に帰ってその話を家族にしました。家族は快く受け入れ、応援してくれました。

4.教員採用試験について

推薦を受けることが決まり、たくさんの書類を準備しました。推薦は一次試験(一般教養・教職教養・専門科目)が小論文に変更されます。小論文の題目も教育関連であり、難しいです。小論文が終わると次は二次試験です。ここからは、一般で教員採用試験を受験し、一次試験に合格した人たちと一緒に受けます。内容は、模擬授業(10 分)、集団討論(約 40 分)、個人面接(約 20 分)、実技面接(私は英語なので英語での面接・約 20 分)です。兵庫県(神奈川県にとっては遠方)からの受験という事もあり、何もかもトップバッターでした。前例がない分比較せずにのびのびとできましたが、不安もたくさんありました。面接内容は教育に関する事、自分自身のことなどでした。とても緊張はしましたが、面接官も教育関係の方々なので傾聴力があり、だんだんと落ち着いて話せるようになりました。そして何とか合格することができました。

教員採用試験についてのアドバイスを記入します。とにかく早くから始めてください。面接練習はキャリアセンターで、模擬授業練習は学科の先生方にお願いしました。就職活動をしていなかったためキャリアセンターを全く使っておらず、面接練習をしていただけると知ったのは試験の 2 週間前くらいでした。急遽時間を作っていただきご指導いただきましたが、ボロボロでとてもじゃないけど間に合わないというような状況でした。ずっとずっと面接のことを考えて生活していました。本当に早くから取り組まないと間に合いません。様々な情報を早めに入手して、早くから取り組んでください。

5.終わりに

結論から言うとどんなチャンスがあるかわからないので毎日コツコツ積み重ねるべし！という事です。4 年生の 4 月まで、教員採用試験に推薦があるとは知らなかったです。推薦の受験資格も TOEIC や英検、成績などなかなか高いものです。TOEIC や英検に向けて勉強したことも、無遅刻無欠席で学校に行っていたことも 4 年後に大きな結果を生み出しました。本当に何があるかはわかりません。突然やってきたチャンスに気付けるよう、日々努力してください。それと同時に大学生活を楽しんで下さい。私は軽音楽部で本当に大切な仲間ができました。みんなとたくさん笑って勉強のストレスなどは全部吹き飛ばしました。大学を卒業するとみんなバラバラになってしまいますが、帰省した時には集まってまたみんなで歌って踊って笑いたいと思います。また、甲南女子大学の先生方は本当に熱心に応援してくださいます。挑戦してみたいけど一歩踏み出せない人や、悩みを抱えている人等は先生方に声をかけてみてください。なにか掴めるはずです。やるべきことはしっかりやって、あとは楽しんでください。ありがとうございました。

やってみよう精神

人間科学部　総合子ども学科
舩越　由佳

やろうかな、でも失敗したら嫌だな、やっぱりやりたいな、あーでもやめとこうかな、、、やりたい気持ちはあるけどなかなか行動に踏み出せない、それなのに後でやればよかったと後悔する。高校までの私はそんな性格でした。絶対に１発で教員採用試験に合格するぞと決意して入学し、今までの自分を変えるためにも、とりあえずやってみよう！と大学生活の中で様々なことに挑戦してきました。

1、2 回生の時は、日々の授業を大切にしていました。授業数が多く大変でしたが、毎回の授業を先生になるという視点で聞き、この力はこういった場面で役立つなと学びを深めていました。授業では模擬授業やグループ活動、発表をする機会がたくさんありました。昔の私なら他の誰かがしてくれるだろうと避けていましたが、自分を成長させるチャンスだと思い、率先して取り組みました。自分から進めることで、人前で話すことやリーダーをすることに慣れ、抵抗を感じなくなりました。また、総合子どもカーニバルの実行委員やオープンキャンパススタッフ、部活動、スクールサポーター、アルバイトなど学業以外の活動にも取り組みました。たくさんの人と関わり重ねてきた経験１つ１つが、面接のネタになるだけでなく、人間性を磨き視野を広げることができたのではないかと思います。

教育実習を終え本格的にやってきた教採期間。みんなで決めたスローガン「積土成山」の言葉通り、小さなことからコツコツと対策に取り組みました。先生方による春・夏の勉強会では、本番さながらの空気感で面接や模擬授業などを行い、実践力や度胸をつけることができました。色んな視点から的確なアドバイスをいただき、ブレブレだった軸が着々と固まっていきました。授業以外にも教採メンバーと集まり勉強や練習を重ねました。教採までの時間はあっという間に過ぎていきます。やみくもに対策するのではなく、しっかりと計画を立てて、いつまでにできるようになると見通しを持つことが大切だと感じました。なかなか力が入らない時もありましたが、隣でがんばる仲間の姿を見て力に変えてきました。みんなの良いところを吸収し自分のものにする。説明会やイベントにもとりあえず行ってみる。始めたものは最後までやってみる…。やれるものは全てやりきることができたからこそ、これだけやったからもう悔いはないと自信を持って本番に臨むことができました。

この体験記を読んでくださっている皆さん。やろうかな、どうしようかなと迷っていることはありませんか？肩の力を抜いて、とりあえずやってみよう！と軽い気持ちで取り組んでみてください。しすぎて損をすることは絶対にありません。少しくらい失敗しても、やらなかった後悔をするよりずっといいはずです。今しかできないことをしっかりとやり、悔いの残らない学生生活を過ごせることを願っています。

最後になりましたが、丁寧にご指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。4 年間の学びを軸として、これからも様々なことに挑戦し成長し続けていきます。

私の合格体験記

人間科学部　総合子ども学科
松本　佳奈

私は、この春から茨木市の公立幼稚園に就職します。私が公立の幼稚園の教諭を目指して感じたこと、これから受ける皆さん、受けようか迷われている皆さんに伝えたいことを、ここに書かせて頂こうと思います。

私は、中学生の時から幼稚園教諭を目指していました。「出身園で働きたい」と思うようになり、自然に公立の幼稚園で働くことを大学の入学当初から意識していました。しかし、公立幼稚園の採用試験は難しいことを知り、採用試験を諦めようとも考えていました。そんな私が採用試験を受けるきっかけとなったのは、3回生の教育実習です。教育実習では、公立の幼稚園に行かせて頂き、先生方の明るく、熱心に子どもたちと向き合う姿に惹かれました。その後、すぐに採用試験の勉強に取りかかりました。

試験勉強を初めてすぐは、何から手を付けていいか分からず、教職支援課や学科の先生方に相談させて頂きながら過去問や問題集などで基本を固めることを意識しました。参考書は違うものをたくさん行うのではなく、同じものを何度も繰り返し使って、間違える問題がなくなるようにしました。また、公務員講座、東京アカデミーの講座、受験対策の勉強会にも積極的に参加しました。学校がある期間はもちろんですが、長期休暇の学校がない期間も学校のコモンルームで勉強をしました。コモンルームは保育の参考書もたくさんあり、分からない単語などはすぐに調べられました。また、コモンルームは子ども学科の先生方もたくさんいらっしゃるので、分からないところを質問したりできました。筆記の勉強と同時に、面接や小論文、実技試験の対策も進めました。面接や小論文は一冊のノートを作り、対策授業も受けました。自己分析を行い、友達と何度も練習をしました。やらなくてはならないことが多すぎていくら時間があっても足りないと感じ、不安になった時もありました。そんなときは、一緒に頑張っている仲間と息抜きをして、そのときを全力で楽しむように心がけていました。いざ、1つ目の試験、2つ目の試験を進んでいく中で、思ったようにできないことや失敗したなと思うことばかりでした。しかし、最後には夢である合格を勝ち取ることができました。

この約1年で私が感じ、皆さんに伝えたいことは2つです。「何があっても諦めないこと」「周りの人たちに頼ること」。周りのみんなが就職を決めていく中、試験で失敗して、続けて意味があるのかと考えてしまいます。しかし、どんなに失敗しても最後まで諦めずにやり遂げたことで私は合格することができました。努力の分、嬉しいことは必ずあります。諦めないで続けてみてください。そして、どうしても辛くなった時は、仲間、先輩、教職支援課、子ども学科の先生方、家族など周りにいる人たちに頼ってください。私はたくさん頼って何度も救って頂きました。そして、まだ受験を迷っている皆さんは是非大学の授業を大切にしてください。採用試験に出る問題は、授業で学んだことばかりでした。私は、採用試験の勉強を通じて改めて大学の授業の大切さを感じました。授業の中で学ぶことを押さえていれば、採用試験を受けることになっても怖くないと思います。

最後に、私が合格することができたのは周りで支えてくれた人たちがいたからだと思っています。その中でも、甲南女子大学の先生方や一緒に頑張ってきた仲間の存在がとても大

きかったと感じています。決して一人では合格することはできなかったと思います。採用試験に向けて先生方や仲間と過ごしたこの 1 年はこれからの私の糧になると思います。これを読んでくださっている皆さんも、採用試験を経験する中で悩むことがたくさんあるかと思いますが、この体験記が少しでもお力になればと思います。応援しています。

合格体験記

人間科学部　総合子ども学科
長友　紫穂

私は、川西市の保育士採用試験に合格することができました。私はもともと私立の園に就職するつもりでいました。公立の園に就職したいけれど、試験に合格するには人一倍勉強・努力しなければならないし、もし合格できなかった場合また一から就職先を決めて試験を受けなければいけない、という怖さがあったからです。しかし、公立の園に就職したいという気持ちも捨てきれず、ずっと迷いながら、私立の園の見学や合同説明会に参加して過ごしていました。そんな時、「あなたなら公立の園を目指せる。」と言ってくれる人がいたり、保育士の公務員試験を受ける友達が身近にいたりしたことから、やっぱり自分も頑張ってみようと思い、採用試験を受ける事を決めました。それが、大学３年の夏のことでした。

“保育士の採用試験を受ける”と決心してからも、私は私立の保育所や幼稚園の合同説明会への参加を続けました。公立の園に負けない程魅力のある園を探し、園見学に行くことで、採用試験が上手くいかなかったとしても気持ちをすぐに切り替えられるよう準備をしておきました。

それから、筆記試験対策としては、保育士試験の過去問題のテキスト（主に解説）を使って勉強したり、子ども学科の先生が開いてくださった勉強会に参加したりして勉強しました。面接練習では、公立試験対策の授業を受けることで、どういった質問がされやすいか、どの様に答えると面接官に伝わりやすいのかを学び、また、自分や周りの人たちの面接時のビデオを観ることで、どういったことに気を付けたらいいのか等を学びました。その後はその学びを踏まえて、友達に面接の練習に付き合ってもらったり、アドバイスをもらったりしながら何回も何回も練習を重ねることで、面接に対して少し心にゆとりを持って本番の面接に挑むことができました。また、同じ市を受けた甲南女子大学の先輩の連絡先を教えてもらい、その先輩から試験のことについて聞いたり、アドバイスをもらったりしながら準備を進めました。

試験を受けようと思えるようなきっかけをくれる存在がいてくれたこと、勉強を教えてくれる人がいたこと、一緒に面接練習をしてくれる人がいたこと、一緒に努力してくれる人がいたこと。たくさんの人達に支えられて今回、私は無事採用試験に合格することができました。

アドバイスとしては、進路が決まっている人もそうでない人も、“普段の授業をしっかりと受けておくこと”をオススメします。私のように「挑戦してみよう。」という決心が遅れてしまっても、今まで習ってきたことが後々の勉強のしやすさに繋がると知ったからです。今回の採用試験を通して、“手遅れ”ということはないんだということを学びました。

最後に、“きっとなんとかなります”。しんどくなった時に私の心を軽くしてくれた言葉です。先輩からの受け売りですが、私からも皆さんへ。今まで頑張ってきた皆さんのことです。きっと大丈夫。きっとなんとかなります。

教員採用試験合格体験記

看護リハビリテーション学部　看護学科 9 期生（2018 年度卒）
神戸市常勤講師（養護教諭）　本田　やす子

教師である父の影響か、幼い時から漠然と「自分は学校の先生になるのかな」と思っていました。高校入学後、明確に養護教諭を志すようになりました。大学進学は、看護師の資格も同時に取得できる甲南女子大学への入学を決めました。大学生活の中で、看護師という職業に惹かれた時期もありましたが、4 年次の「養護実習」での経験が最終的な決め手となり、卒業後は養護教諭の道 1 本で進むことを決意するも、およそ 10 倍という難関である 4 年次に受験した初めての教員採用試験の結果は不合格。自分の勉強不足と意識の低さをひたすらに痛感しました。ですが、試験を受けたことで将来のビジョンがよりはっきりとし、合格を目指すモチベーションにも繋がったように思います。就職は、自治体の講師登録をしてどこからも勤務先の連絡がなければないで、卒業後すぐ約 3 か月は教員採用試験勉強の時間にあてようと覚悟を決めていました。しかし、大学卒業後すぐ 3 月末、ご縁があって神戸市内の小学校で 4 月 1 日から臨時採用の養護教諭として働いて 1 年が経とうとしています。

私の勤務校は在籍児童数が 1000 人を超える大規模校なので、就職してすぐの 4 月からはほぼ毎日定期健康診断があります。慣れない業務にあわせて、検診と事後措置、なにもかもが初めてのことばかりです。平日はなかなか教員採用試験勉強をする時間も気力もなく、試験への不安は募るばかりでしたが、「日常の中で吸収できるものはすべて吸収しよう！」という思いだけは忘れずに日々を過ごしていました。今思えば、普段の仕事の中で培った知識や技術も、試験に生かされたものがたくさんあったと思います。1 次試験には「一般教養」と「専門教養」が出題される地域が大多数だと思いますが、私は主に自分の強みを生かすことができる「専門教養」に力を入れて勉強しました。過去 10 年ほどの試験内容を見ておけば、問題のパターンや必ず出題される項目などが分かってくるため、自分の受験する自治体の過去問を分析することはとても大切だと思います。また、学校保健安全法などの関係法規は頻出なので、赤シートなどを用いて教材を作り、数字や細かいところまで正確に覚えておくことも自分にとっては有効な勉強法でした。集団面接や小論文、個人面接では、現在の臨時講師としての経験を十二分に生かすことができたと思います。特に個人面接の練習や模擬授業で使う指導案作りなどは、校長先生をはじめとした学校の先生方が献身的に協力してくださったおかげで、安心して本番に臨むことができました。結果、卒業後すぐのチャレンジで合格を手にすることができました。

今回こうして合格体験記を書かせていただくにあたって私が皆さんに伝えたいことは、まず、「養護教諭になりたいという気持ちがある限り決して諦めてほしくない」ということです。狭き門で、教員採用試験に合格できるかどうか等、先の見えない不安にかられることもあるかもしれません。しかし、自分を信じて努力をすることは、これからの人生において決して無駄になることはないと思います。そして二つ目に、「少しでも経験を積むことができるチャンスがあるならば、どんなことでも逃さずにチャレンジしてほしい」ということです。当たり前ですが、学校教育現場では教科書に載っていないことがたくさん起こるので、毎日が失敗と反省、そして勉強の連続です。1 年でも社会に出て働いた今、私が胸を張って言えること、それは「経験は必ず自分の武器になる」ということです。臨時講師もさながら、

宿泊行事の帯同看護師、ボランティアなど、子どもたちと関わる機会は意外と多くあるので、迷っている人は勇気を出してぜひ一歩踏み出してみてください。

最後になりましたが、大学時代にお世話になった先生方をはじめ、たくさんの方々の支えがあってこその合格であると、心から感謝の気持ちを伝えたいです。これから教員、養護教諭を目指されるみなさんのことを全力で応援すると共に、自分自身もまた新たなはじまりとしてこれから頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

教員を目指す後輩へのメッセージ・アドバイス

人間科学部　総合子ども学科
藤田　明香里

私は、大阪市の教員採用試験に合格し春から大阪市の小学校教員になります。私の経験談から一つでも皆さんの参考になるものがあればいいなと思います。

・『大阪市の教員採用試験』のついて

まず大阪市の教員採用試験は、ボランティア経験と英語の資格を有する者に、加点がされる制度があります。しかし、両方とも条件が厳しく書いてあるので、大阪市のホームページからしっかりと確認しておくべきです。

大阪市は、試験内容の１次が一般知能・教職教養・面接、２次が専門（５教科）・実技・面接となっています。どちらにしよ、面接試験の配点が高いため面接練習は必須です。

各自治体で配点や内容が違うため、自分の受ける自治体の傾向をしっかりとつかみ、分析することが大切です。

・『勉強』について

私は、勉強が全く得意ではありません。むしろ、大嫌いです。ほとんどの人がそうだと思います。私は頭が良くないためスポーツ推薦で乗り越えてきました。採用試験が初めての勉強だというぐらい今まで勉強はしていませんでした。

そんな私が勉強してみて感じたことは、時間をかけてやれば誰でも出来ます。失礼かもしれませんが、出来る事をするかしないかは自分次第です。始めたばかりの時はうんざりします。椅子に座るのも嫌になります。何もわからなくて、イライラします。不安でいっぱいになります。それでも、始めたばかりだから分からなくて当たり前、大丈夫、一つずつやろう！と、いかに冷静で前向きになれるかが大切だと思います。諦めるのは簡単です。少しずつでも続けてすれば何かは得られるはずだと思います。

そして友達とたくさん話すことです。それは先生でもいいと思います。人は一人ではネガティブになりやすいと思います。たくさん周りに相談して、「苦手なところは助けてもらう。得意なところは教えてあげる。気持ちの面でもお互いに励まし合う。」そうして前向きになる力を身につけてください。言葉は自分に返ってくると思います。『出来ない』よりも『出来る』と自分を信じてあげるしかありません。前向きに勉強していくと、分かるところが増えてきます。まだまだここが出来ていないと目を向けるのではなく、たまには出来た自分をすごいと褒めて、少しご褒美を与えてあげてください。何も分からなかった自分がこんなに出来た！と思うだけで、気持ちは楽になるはずです。

分かるところがないから、自分を褒められない人は、１日の絶対できる目標を決めてそれだけはしっかりやればいいと思います。例えば最低５ページは絶対する！それで出来たら褒める。あとは周りの人に褒めてもらう。

・『面接』について

私は、採用試験に筆記ではなく面接で受かったように感じています。意識したことは、文を覚えない、自分の言葉で話す。難しい言葉よりも自分の言葉が一番伝わりやすいと思うからです。しっかり教員になりたい！という強い気持ちがあれば、面接官にも伝わるはずです。自分の軸がぶれないように、考えをまとめておくぐらいで、なんでも答えてやるぞ！と強い

気持ちがあれば大丈夫だと思います。あとは、小さい声で失敗するよりかは大きすぎる声で失敗しよう。暗い顔で失敗するよりかは、明るすぎる笑顔で失敗しよう。その気持ちで面接に向かいました。自分をとらないで誰をとる！そんな事を自分に言い聞かせました。面接の際は、さすがにそんなことは言わないし謙虚にしましたが、その気持ちだけは持つようにしていました。

・『最後に』

私は、模試のテストもずっと E 判定、合格率は０～２０%です。最後の模試で D 判定に上がって喜んでいました。そんな私は、《諦めない人が教員になれる》この言葉を信じていました。もしも、E 判定ばっかりの時にもうダメだと勉強する事をやめたら、試験中に分からない問題が出てきて、鉛筆を置くのと同じです。絶対に受かるはずがない。勉強し続けることに意味があるのだと採用試験で学びました。勘でも、鉛筆を転がして、問題の選択肢を選び続けることが大切です。運が良ければ、全部正解になるかもしれないし、イヤイヤ勉強したところがそのまま出るかもしれない。不正解でも、答えを書いてないのと書いたのも同じ不正解です。そう思って頑張るしかないし、教師になった際も学び続けることができるかどうか見られている試験だと思って諦めずに頑張りました。私の経験が皆さんの役にたつかは分かりませんが、本当に〝諦めない〟と〝前向き〟この２つだけを意識して取り組みました。

私は、一人では絶対に乗り越えられません。大学の友達、先生、家族、他にもたくさんの人に支えられて合格することができました。頼ることは、弱いことではないと思います。むしろ、しっかりと周りを頼るべきです。私は勉強が苦手なので友達に１日の進むべきところすべて決めてもらい、勉強方法も友達の真似をしたりして自分に合う方法を探しました。たくさんの先生に、何度も面接練習をしてもらい、歌もピアノも苦手で、音楽の先生を頼りました。場面対応も実際に小学生の保護者の人に、どんな先生なら信頼できるかを聞き練習してもらい、子どもたちにもどんな先生が好きかを聞きました。一人で頑張るのではなく、みんなで頑張ることは教師になった際も必要なことだと思います。

教員を目指しているみなさん、素敵な教員を目指して頑張ってください！私も素敵な教員になれるよう精一杯努力を続けたいと思います。みなさんのやる気に少しでも繋がればいいなと思います。本当にこの大学で学べて良かったです。ありがとうございました。

教員を目指す皆様へのメッセージ

人間科学部　総合子ども学科
橋口　えりか

私は４月から、東大阪市にある私立幼稚園の教員になります。就職先が決まってからは、子どもの頃から憧れていた「先生」になれるということに幸せを感じながらも、責任の重い仕事への不安を抱く日々を過ごしております。

実習先の先生や大学の友人などと保育士や幼稚園教諭について話していると、必ずと言って良いほど「大変やのにお給料が少ないよね。」という話になります。また、親戚に幼児教育について学んでいると言うと「先生になるん？え～、なんでわざわざそんなしんどい仕事するん。」と言われます。私は、このような会話を大学生になってから数え切れないほどしてきました。そして、その度に一般企業に就職しようかと悩んできました。

幼稚園教諭になると決めた今思うことは、自分以外の誰の言葉も信じなくて良いということです。同じ時期に、同じ園に実習に行ったとしても、抱いた印象が全く異なることがあります。同じ仕事をしても、かかった時間や感じたしんどさは人によって違います。つまり、「先生」という仕事の価値は自分にしか分からないということです。

私はまだ教員ではなく、自分の中でのそれの価値は明確なものではありません。しかし、私たちは実習を通して教員を少しだけ体験したり、間近でその姿を見たりすることができます。そして、だんだんと「先生」の輪郭がはっきりとしてくると思います。私は、幼稚園教諭とは子どもの一生に関わるとても大切な仕事だと思いました。幼稚園で、直接子どもやその保護者と関わる期間は数年と短いですが、その数年は子どもの一生にとってとても貴重な数年です。そのため、責任重大な仕事なのです。

私が４月から働いて頂けるお金は、一般的にそれほど多いとは言えないのかもしれません。しかし、「先生」として働くことで得られるものはお金だけではなく、子どもと過ごす日々の中に数え切れないほど詰まっているのではないかと思います。

いま、皆さんの中には教員になるかどうか悩んでいる方がいらっしゃるかもしれません。また、教員になることに不安を抱きながらも勉強しておられる方もいらっしゃるかと思います。私もその１人です。就職先が決まった後も、不安はずっと抱き続けています。しかし、私たちは「先生」になったことがないため、不安に思って当たり前なのだと思います。そして、少しでもその不安を軽減するためには、知識や技術を身につけるしかないのだと思います。

４月から、幼稚園教諭となった私が「先生」という仕事についてどう思うのか、自分自身楽しみにしています。悩んだり、不安に思ったりしていらっしゃる方も、「やってみないとわからない」と考えて、楽しく勉強していただけたら嬉しいなと思います。子どもについて学ぶ仲間として、一緒に頑張りましょう。皆様が笑顔で教員になられることを願っております。

５．教職支援課の概要

教職支援課は本学教職課程を履修し、教員免許の取得を目指す学生を支援するとともに、免許状更新講習の実施等を通じて、社会的な貢献も果たすべく活動を行っている。

○　教職支援課の支援体制について

教務部長を筆頭として、課室には教員 6 名・事務職員 4 名のスタッフを配置しており、学生相談及び各種事務業務にあたっている。

＜2019 年度 教職支援課スタッフ＞

教務部長	森　由紀	（人間科学部生活環境学科　教授）
	金延　重光	（文学部日本語日本文化学科　講師）
	赤井　悟	（文学部英語文化学科　教授）
	尾﨑　靖二	（人間科学部総合子ども学科　教授）
	曽我　佳子	（人間科学部総合子ども学科　助教）
	藤原　裕子	（人間科学部総合子ども学科　助教）
	他　事務職員 4 名	

○　教職支援課の利用について

原則として、利用は本学在学生および卒業生のみとしており、月曜日から金曜日（祝祭日は除く）までの 9：00～18：00 の間、開室している。

※授業実施期間以外は 9：00～17：00 の開室としている。

窓口での相談については、事前予約制はとっておらず、相談希望者は開室時間中いつでも相談をすることができる。相談内容は、履修相談から実習関係、実習で使用するグッズの制作等、幅広く受け付けている。

また、課内には、全国自治体の教員・幼稚園・保育士採用試験問題集や参考書、絵本や手遊びに関する書籍・資料、雑誌等を設置しており、開室時間中は課のフリースペースでの閲覧が可能。書籍の貸出しは行っていないが、一部の書籍については本学図書館に同じ物を配架しているため、貸出し希望の場合は図書館配架の書籍を活用するように案内している。

○主な学生支援スケジュール

開催日		オリエンテーション（事前・事後指導を含む）	対象者	実施者
月	日			
4	2	中高教育実習事前オリエンテーション	「教育実習Ⅱ(中高)」履修者	事務職員
	3	介護等体験オリエンテーション・事前指導	「介護等体験」履修者	教員・事務職員
	11	神戸市学生スクールサポーター説明	教職課程履修中の2年生以上	神戸市教育委員会
	8	「履修カルテ作成」説明会	総合子ども学科1年生対象	事務職員
	10	介護等体験マナー講座①	「介護等体験」履修者	外部マナー講師
	10	養護実習ガイダンス	「養護実習Ⅰ・Ⅱ」履修者	事務職員
	13	小学校教育実習事前指導①	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）」履修者	教員
	17	介護等体験マナー講座②	「介護等体験」履修者	外部マナー講師
	20	小学校教育実習事前指導②	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）」履修者	教員
	27	小学校教育実習事前指導③	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）」履修者	教員
5	10	実習年度「保育実習ⅠA・ⅠB」ガイダンス	「保育実習ⅠA・ⅠB」履修登録者	事務職員
	13	実習年度「保育実習Ⅱ・Ⅲ」ガイダンス	「保育実習Ⅱ・Ⅲ」履修登録者	事務職員
	24	抗体検査結果説明会	総合子ども学科1年生対象	教員
6	13	次年度「保育実習Ⅰ」ガイダンス	2019年度「保育実習Ⅰ」登録希望の1年生	教員
	19	幼稚園教育実習事前指導	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）」登録者	教員
7	3	小学校教育実習事前オリエンテーション	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）」登録者	事務職員
	5	「腸内細菌検査」説明会	「保育実習Ⅰ」登録者	教員
9	26	「履修カルテ作成」説明会	看護・中高教職課程履修希望1年生	事務職員
10	21	「保育士登録申請」説明会	保育士取得見込みの総合子ども学科4年生	事務職員
11	29	次年度「介護等体験」申込説明会	事前指導出席者	事務職員
	30	幼稚園教育実習事後指導	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）」登録者	教員
	30	小学校教育実習事後指導	「教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）」登録者	教員
12	9	「教員免許状一括申請」説明会	幼・小1種免許状取得見込み総合子ども学科4年生	事務職員
1	14	「教員免許状一括申請」説明会	中1種・高1種・専修免許状取得見込み学生	事務職員
	15	教育実習記録書き方講座	「教育実習Ⅰ（中高）」履修者	教員
	17	「教員免許状一括申請」説明会	養護教諭教員免許状取得見込み学生	事務職員
	24	合格体験発表会	総合子ども学科希望者	教員
	29	介護等体験事後指導	「介護等体験」履修者	教員
2	4	次年度幼稚園教育実習事前指導①	平成31年度「教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）」登録予定者	教員

※３月以降は、コロナウイルス感染防止のため、説明会等が中止になっています。

※随時、教採試験対策等各種講座、面接指導及び模擬試験等を実施

６．教員の養成の状況についての情報

○教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

本学では、教員養成の目標や取り組みについて、大学全体および各学科・免許ごとに、以下の通り定めている。

［全学］
甲南女子大学は「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「全人教育・個性尊重・自学創造」を教育方針に掲げている。これらを基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性の育成を大学の使命としている。この建学の精神に基づき、教職課程では、幅広い視野と教養を身につけ、高度な専門性および教職への強い使命感を有する教員を養成することを目的としている。この目的を実現するために、本学では少人数教育および個々の学生に応じた教職支援を教員、教職支援センターが組織的、一体的に行っている。こうした支援を通じて、学生が自らの課題を見出し、明確な目的意識の下で専門性の向上に主体的に取り組み、生涯にわたって「学び続ける教師」の育成を目指している。

［文学部　日本語日本文化学科］
日本語日本文化学科では、正しい日本語と奥深い日本文化を基礎から幅広く学ぶことを教育課程編成・実施の方針としている。これに基づき、本学科の教職課程では、日本語、日本文学、日本文化について幅広い知識と深い教養を備えた国語科教員を養成することを目的とする。このため、本学科では、少人数制の演習を中心にさまざまな学習の機会を学生に与え、また各教員がきめ細やかに学生を指導することを通じて、教員にふさわしい資質の涵養を目指す。

［文学部　英語文化学科］
英語文化学科では、英語運用能力と言語・文化についての専門知識を十分に身につけた上で教育実践のできる英語教員の養成を目標としている。そのため、カリキュラムには多くの英語科目のほか、広範にわたる分野の専門研究科目を（選択）必修科目として置いている。教職課程と並行して、学科独自の「児童英語教員養成プログラム」の履修も推奨し、幼児・小学生への英語教育も視野に入れることのできる教員の養成を行っている。英語運用能力については、授業外でも e-space（自習スペース）における活動や学習相談などによってサポートし、さらなる伸長を目指している。

［文学部　多文化コミュニケーション学科］
多文化コミュニケーション学科では、グローバル社会の中で活躍できる実践的語学力として高い英語運用能力を身につけるとともに、異文化理解の基礎となる教養や知識の獲得、それを社会の中で貢献していく行動力を養うことを目的としている。これに基づき、本学科の教職課程では、「使える語学」としての英語力と共に、グローバル社会の中で多様な背景を持つ人たちと積極的にコミュニケーションを取り、交流や仕事ができる人材を育成する。常に世界、日本社会の中での自分の役割について考え、そのために積極的に行動すると共に、教育現場の中でもそれらに関する高い意識と行動力を持った教員を養成することを目指す。

［人間科学部　心理学科］
心理学科では、人の行動や心理に関心を持ち、そのことに関して科学的態度で分析し解明することを志す学生の養成に努めている。したがって教員養成においては、教科科目の専門的知識の習得は当然のこととして、心理学を学んだ経験を活かし科学的見地から有効な教授方法を自ら工夫し活用できるようになることをめざす。加えて、生徒指導などにおいても心理学の知識を有効に活用し、生徒の理解・指導にたけた人材の育成を目的とする。

［人間科学部　総合子ども学科（幼稚園一種免許課程）］
総合子ども学科では、子どもの発達を総合的に捉える「子ども学」を中心に、広く教育現場で活躍できる高度な専門性を備えた人材の育成を目的としている。そのため、幼稚園教職課程では、子ども理解に基づいた総合的な指導力、豊富な現場体験を生かした高度な実践力、同僚との協働関係の構築を可能にするコミュニケーション能力、ならびに新たな教育課題に積極的に取り組む姿勢を有する教員の養成を目指す。

［人間科学部　総合子ども学科（小学校一種免許課程）］
総合子ども学科では、第１に、「まことの人間をつくる」という建学の精神に貫かれた学びを通じて、豊かな人間性と柔軟なコミュニケーション力を身につける。第２に、「子ども学」を軸とした多彩なカリキュラムを通じて、子どもを広く深く理解する。第 3 に、きめ細かい、丁寧な指導を通じて、高い専門性を身につけた「学び続ける教師」を目指す。以上の 3 つの観点を通じて、質の高い小学校教員養成に取り組む。

［人間科学部　文化社会学科］
文化社会学科では、身の回りで起こっているさまざまな社会現象に対して、自ら動いて情報を集め、集めた情報をもとに自分で答えを出し、その答えを人に向けて的確に伝えることのできる人材の育成を目指している。この方針に基づき、教職課程では、インタビューやアンケートなどの「取材」(社会調査)の手法を学ぶことを通して、社会に氾濫する情報の真偽を自分の目で確かめたうえで、周囲の意見に流されない自分自身の考え方を的確に表現できる教員を養成することを目的としている。

［人間科学部　生活環境学科］
生活環境学科では、持続可能な社会の実現に向けて、幅広い視野に立ち、ヒトと生活環境を形成するモノ（衣・食・住）とコト（法・経済）に関する基本的知識とそれらの相互関係を、学際的かつ実践的に学ぶ。そして、変化し続ける社会に対応しながら、生活者としての責任を自覚し、自立した女性として、ライフスタイルを創造できる力を身につけさせるための「環境教育」に優れた教員を育成することを目標とする。

［看護リハビリテーション学部　看護学科］
看護学科では、看護学の専門性にのっとり、学校教育における幼児・児童・生徒及び教職員を対象とした学校保健活動と養護実践の基盤を培う。そのために、看護学の専門的知識・技術をベースに、1 年次から 4 年次まで系統的に教職科目及び養護専門科目を配置する。また、4 年次には、学校教育に関わる多職種と連携する基礎的・実践的知識の向上にむけて、学生が主体的に課題を探求するための演習を通して、生涯にわたって「学び続ける養護教諭」を養成することを目指している。

［医療栄養学部　医療栄養学科］
医療栄養学科では、栄養教育に関する高度専門知識ならびに技術を習得した管理栄養士が、国民の生涯にわたる食育推進に寄与することを理念とする。学校教育では、教科学習における食に関する指導の実践・普及を進めると共に、健康診断などと連携し個々の児童生徒の健康状況に見合った栄養教育を担う栄養教諭を養成する。

○2019(令和元)年度　教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

[教員の養成に係る組織及び教員の数]

＜学部＞

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				教科及び教科の指導法に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
文学部	日本語日本文化学科	中・高一種[国語]	1		1	2	4	2		6	8
	英語文化学科	中・高一種[英語]	1		1	2	4	3	2	9	11
人間科学部	総合子ども学科	幼一種	6	2		8	2	3		5	13
	総合子ども学科	小一種	5	1		6	4	4		8	14
看護 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	養一種	1		1	2	6	4	3	13	15
医療栄養学部	医療栄養学科	栄一種	1		1	2	1			1	3

＜大学院＞

専攻	コース	免許種	大学が独自に設定する科目			
			教授	准教授	講師	計
言語・文学専攻	日本語日本文学コース	中・高専修[国語]	4			4
	英語英米文学コース	中・高専修[英語]	3	1		4
心理・教育学専攻	人間教育学コース	幼専修	4	1		5
	人間教育学コース	小専修	4	1		5

[各教員が有する学位及び業績]

本学 Web サイト上にて公開している。

http://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/teachers/

[授業の方法および内容並びに年間の授業計画]

本学 Web サイト上にてシラバスを公開している。

https://lily.konan-wu.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c075F03A0-894E-FDFB-3095-FB032F792008_kC7AA1EEF-5D48-E524-40BD-237DA64C4B9C

〇教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること

教員免許取得希望者に対し、神戸市教育委員会協力していただき、学内で神戸市学生スクールサポーター募集の説明会を開催しており、学生がスクールサポーターとして教育現場で活動できる環境を整えている。また、教育実習に先立って、学校でのボランティアに参加する仕組みも有している。さらに、一部授業科目で、教員経験者をゲストスピーカーとして招き、現場の声を聞くことができる内容とするなどしている。
また、教職課程履修者が本学園併設の甲南女子中高等学校において授業見学をする機会も設けており、現場の教員との対話などを通じて、実践力を養う取り組みも行っている。
一方で、教職員が都道府県の実施する教員採用試験に係る説明会や、全国私立大学教職課程研究連絡協議会・阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会が実施する研究会やセミナー等に参加し、最新情報の収集や知識を深める努力を行っている。

○2019(平成 30)年度　教職課程・保育士課程のイベント参加状況

開催日	事項	場所
2019年5月15日	2019年度定期総会　第1回課題研究会および情報交換会	関西大学
2019年5月25日 2019年5月26日	全国私立大学教職課程研究連絡協議会　定期総会・第39回研究大会	大阪ガーデンパレス 近畿大学
2019年6月14日	保育士養成機関関係者との意見交換会	ANAクラウンプラザホテル神戸
2019年6月18日	大阪社会福祉協議会　第40回養成校と児童福祉施設との実習研究懇談会	OMMビル
2019年8月30日	令和2年度(2020年度)豊中市立小・中学校における教育実習希望者受入れに係る事務説明会	豊中市教育センター
2019年9月14日	第1回　阪神教協　教員免許事務セミナー	関西大学梅田キャンパス
2019年9月20日	大阪府社会福祉協議会「第8回　保育士養成校と保育園・認定こども園との研究懇談会」	シティプラザ大阪
2019年11月29日	令和元年度兵庫県教員免許更新講習連絡協議会	兵庫県農業共済会館
2019年12月18日	2019年度第3回課題研究会	関西大学千里山キャンパス
2020年1月10日	明石市立中学校における教育実習等事務手続き説明会	明石市役所
2020年2月14日	令和元年度　第2回神戸市学生スクールサポーター連絡協議会	教育・地域連携センター
2020年2月22日	第2回　阪神教協　教員免許事務セミナー	大阪工業大学梅田キャンパス
2020年2月24日	平成元年度　第10回　兵庫県施設保育士養成協議会研究懇談会	ホテル北野プラザ六甲荘

編集・発行

甲南女子大学　教職支援課

2020 年 12 月 28 日発行

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町 6-2-23
T E L : 078-413-3095 / F A X : 078-413-3901
MAIL : kyomen@konan-wu.ac.jp
U R L : http://www.konan-wu.ac.jp